

(3) 診断テストの解説

ここでは、診断テストの質問に対し、事例を交えながら火災から逃げられない理由を解説しています。まずは、直感で考えて、タイプ別が決まった後に、振り返り（ヒント）として活用してください。

《「行動」パート》

①何人で住んでいますか。
家族の人数が多いと、避難の時間が何倍もかかるという結果があります。全員に火災を伝える必要も出てきます。
②寝室は何階にありますか。 (マンションやアパートなど居住空間に階層がない場合は、1階としてください。複数のケースがある場合は、上階を選んでください。)
2階に寝室があると、避難が遅くなるという結果があります。火災においては、寝室を1階にすることはリスクを減らすこととなります。ベッドから、屋外へ5歩で、逃げ出せるようにしている例もあります。
③階段に手すりがついていますか。
2階を寝室としている場合は、階段が非常に重要な役割となります。煙で階段の下が見えずに、転げ落ちたという被災者の例もあります。手すりがあるだけで、避難の補助の1つとなります。
④ペットを飼っていますか。
ペットを避難させるには非常に時間がかかります。特にペットを探す間に、2～3分が経過してしまいます。また、ペットの種類によっても差がでます。
⑤1人で避難が困難な人はいますか。
避難をさせるのにも優先順位が必要です。どのように誰を避難させるのか。また、避難をさせる中ではシーツなどを使うという手段もあります。
⑥あなたは聴覚に障害がありますか。(高齢により聞こえづらい方も含む。)
1950年に岡山県聾学校寄宿舎で発生した火災では、耳が不自由な生徒が16人犠牲になりました。聞こえないことは、逃げ遅れのリスクが高くなります。
⑦避難経路(廊下や階段)に避難に支障となる物品がある又は築34年以上の家。
避難経路に物があると避難が遅れるので、避難経路上には物を置かないようにする必要があります。また、過去の火災を分析したところ、築34年以上の建物での火災が多いということがわかりました。

《「心理」パート》

①65歳以上ですか。

若者と比べて、高齢者は、避難より消火を優先することがVRの実験で明らかになりました。高齢者は、消火に夢中になり、避難が遅れる傾向があるため、その特性を把握しておく必要があります。

②目の前で火事(小さな炎:10センチ程度炎があがっている。)が起こった時、何を選びますか。

市民に行ったアンケートによると、小さな炎であれば、まず、消火をする割合が64%、避難が6%、通報が21%となっていました。消火ができる状況であれば、すぐに行動を起こす必要がある一方で、小さな炎だと油断をしてはいけません。

③目の前で火事(大きな炎:背丈より炎があがっている。)が起こった時、何を選びますか。

市民に行ったアンケートによると、背丈くらいの炎であれば、まず、消火をする割合が39%、避難が10%、通報が43%となっていました。多くの人が、通報を選んでしまう傾向にあることから、避難を優先してください。

④住宅用火災警報器の音を聞いたことはありますか。(自動火災報知設備を含む。)

音を初めて聞いて、パニックになる事例があります。音を事前に聞いておくことは、パニック防止になり、確認までの行動を早めることができます。

⑤目の前で火事(大きな炎)が起こった時、消火するためにどのような行動をとりますか。(自宅に備わっているもので1つ選んでください。)

過去の事例では、ストーブ火災に毛布をかける事例があります。これは一時的には消火したように見えますが、燃えるものを火の近くに集めていることとなります。消火器を備えておきましょう。

⑥町内会などで行う消火訓練に参加したことがありますか。

地域の防災訓練にはぜひ参加をしてください。地域で助け合うことが火災発生時にも、非常に重要です。近所の人が、住宅用火災警報器の音を聞いて、家人を助けた事例もあります。

⑦自分が着ている衣服(上着の袖部分)に火がついた場合(着衣着火)どのような行動をとりますか。

着衣着火は、こんろの奥の物を取りに行くときなどに起こります。水をかける余裕がない場合などは、床に転がって、消火してください。走ると、火を拡大させてしまう可能性があります。